

## 日本移民学会第 30/31 回年次大会プログラム

\*\*\*\*\*

【日時】：2021 年 6 月 19 日（土）・20 日（日）

【会場】 オンライン（Zoom）

【問い合わせ先】 大会企画委員会：iminkikaku@gmail.com

【主催・共催】 主催：日本移民学会

\*\*\*\*\*

### 大会シンポジウムテーマ：「人びとの帰還／移動／再移動を考える」

これまでの移民研究においては、移動の動機や背景、それを生み出す構造とともに、移動先での残留や定着の過程、移動先でのコミュニティの形成、文化活動、世代交代等について多くの成果が生みだされてきた。ここで注意すべきは、ある個人や社会集団の移動（生活の根拠を長期的に移す移動）は、一度で終わるわけではないことである。いったん移動した、あるいはそれを強いられた人びとが、再び自分の故郷やあるいは本来帰属するべきと考えている場所に帰還することは珍しくない。また、本国や歴史的故郷への帰還を行う人びとも少なくない。なお、第二世代やかなり長期間、故郷を離れていた第一世代が、本国や歴史的故郷に移動する場合は、帰還というよりは再移動といったほうが適当な場合もあるだろう。

こうした現象のうち、戦争終結に伴う植民者の本国送還や不本意な残留の解消いわゆる引揚げは、移民研究のなかで注目され、近年、その研究も活発化している。今回の企画では、そうした研究動向を視野に入れつつ、より広い見地から、移民（移動を強いられた人びとも含む）の帰還や再移動という現象が、なぜ、どのような客観的条件や本人たちの認識、選択のもとで起こるのか、また、その現象が関係する社会にどのような影響を与えるのかを考えていきたい。

開催校企画責任者 外村 大  
大会企画委員長 佐原 彩子

### 30 周年企画シンポジウム：

「日本移民学会の未来－移民研究は如何に現代の課題に貢献できるのか」

本シンポジウムでは、日本移民学会の未来を考えるなかで、現代の移民をめぐる諸課題の解決に移民学会が如何に貢献できるのか、考えることとしたい。学会と問題関心を共有する主体である博物館や移民コミュニティの組織は移民の語りを記憶し、保存し、発信する重要な役割を担っている。日本移民学会 30 周年に当たり、激動する現代において、移民研究者は如何なる地域・社会貢献が可能であろうか。5 人の登壇者から地域や博物館を始めとする移民研究の最前線の最新の状況と未来へ向けた課題について報告していただき、日本移民学会のこれからについて知見を共有する機会としたい。

30 周年記念行事委員会委員長 浅香 幸枝、坂口 満宏

## ■ 大会第1日目：6月19日（土）

- 9:00 ~ 10:00 四役会議（Zoom会場1）
- 10:00 ~ 11:00 理事会（Zoom会場2）
- 11:00 ~ 13:00 ラウンドテーブル 6会場（Zoom会場3~8）
- 14:00 ~ 17:30 大会シンポジウム（Zoom会場9）  
タイトル：人びとの帰還／移動／再移動を考える  
司会：外村 大（東京大学）  
報告1. 衣笠太郎（秀明大学）「オーバーシュレージエン自由国—第一次世界大戦直後の中欧境界地域における独立国家構想」  
報告2. 大野 あずさ（大阪経済大学）「アメリカ先住民の都市化—インディアン都市移住計画(1952-73年)と都市先住民の今」  
報告3. 菊池 嘉晃（早稲田大学招へい研究員、読売新聞社）「在日コリアンの北朝鮮帰国事業—冷戦下の「移民的帰還」の考察」  
コメント：鶴見 太郎（東京大学）、谷垣 真理子（東京大学）
- 17:40 ~ 18:20 総会（Zoom会場9）

## ■ 大会第2日目：6月20日（日）

- 8:45 ~ 9:15 理事会（Zoom会場10）
- 9:15 ~ 11:50 (A会場) 自由論題報告 2会場（Zoom会場11, 12）
- 9:15 ~ 12:30 (B会場)
- 12:30 ~ 14:20 30周年記念ラウンドテーブル（Zoom会場13）  
司会 菅（七戸） 美弥（東京学芸大学）・河原 典史（立命館大学）  
報告1. 戸上 宗賢（龍谷大学名誉教授）「学会創設三十余年後に想う」  
報告2. 飯田 耕二郎（大阪商業大学元教授）「日本移民学会設立の頃」  
報告3. 飯野 正子（津田塾大学名誉教授）「日系アメリカ人研究から日系カナダ人研究へ」  
報告4. 木村 健二（下関市立大学名誉教授）「今、取り組んでいること—海外移民と国内移動」  
報告5. 白水 繁彦（武蔵大学名誉教授・駒沢大学名誉教授）「エスニック文化研究への道途：エスニック・メディア、エスニック・エージェント、民族文化主義」
- 14:30 ~ 17:00 30周年記念シンポジウム（Zoom会場13）  
タイトル：「日本移民学会の未来—移民研究は如何に現代の課題に貢献できるのか」  
司会 坂口 満宏（京都女子大学）  
報告1. 蘭 信三（大和大学／上智大学）「日本移民学会にとっての「ポストコロニアル移民」研究—その回顧と展望」  
報告2. 竹沢 泰子（京都大学）「移民研究の可能性—トランスパシフィック研究の視点から」  
報告3. 中牧 弘充（吹田市立博物館）「利用者の視点から見る移民博物館の役割」

報告 4. 浅香 幸枝 (南山大学) 「2030 アジェンダ (SDGs) 実現に向けての  
移民研究の役割」

報告 5. アンジェロ イシ (武蔵大学) 「コロナ危機と在日ブラジル移民の“失  
われた 30 年”、そして移民研究の次なる 30 年」

17:10 ~ 18:00

理事会 (Zoom 会場 14)

## ◆ラウンドテーブル (大会 1 日目 11:00~13:00)

ラウンドテーブル A (Zoom 会場 3)

日系女性のドキュメンタリー映画をめぐって：映画監督と考える映像記録とライフストーリー

モデレーター：白水 繁彦 (元駒澤大学・武蔵大学)

松元 裕之 (映画監督)

ラウンドテーブル B (Zoom 会場 4)

日系移民研究の拡がりの可能性－対象と枠組みの再考から

モデレーター：佐々木 剛二 (慶應義塾大学)

日系移民の戦争経験を<sup>かちまけ</sup>勝負抗争の「脱コロニア史観」から考える

Soares Motta Felipe Augusto (大阪大学)

日系二世従軍のナショナル／トランスナショナルな記憶と方法としてのオーラルヒストリー

松平 けあき (上智大学)

移民研究におけるトランスナショナリズムの拡がり、可能性と課題：1930 年代のアルゼンチン在住日  
本人移民による言論活動を中心に

Garasino Facundo (JICA 緒方貞子平和開発研究所)

日系人研究の時間と空間の拡がり－日本人移民史と在日南米人研究の対話に向けて

長村 裕佳子 (JICA 緒方貞子平和開発研究所)

ラウンドテーブル C (Zoom 会場 5)

境界変動と移住：北東アジアと欧州の事例から

モデレーター：山口 博史 (徳島大学)

サハリン島の境界変動とマイノリティの発生

中山 大将 (釧路公立大学)

在韓在日コリアンの越境の経験

田中 里奈 (フェリス学院大学)

スロヴァキア南部の境界変動とマイノリティ

神原 ゆうこ (北九州市立大学)

ブリュッセル周辺地域の〈マイノリティ〉

山口 博史 (徳島大学)

ドイツ統一と旧東ドイツ社会科学者の経験

飯島 幸子 (愛知大学)

ラウンドテーブル D (Zoom 会場 6)

移民に関するオーラルヒストリー・アーカイブ化の構築に向けて

モデレーター：蘭 信三 (上智大学)

国立国会図書館における南米移民オーラルヒストリーのデジタル・アーカイブ化という課題

福山 樹里 (国立国会図書館)

オーラルヒストリーのアーカイブ化に向けての具体的な課題と提言

安岡 健一 (大阪大学)

沖縄におけるオーラルヒストリーのアーカイブ化をめぐる現状と課題  
コメント

中村 春菜 (琉球大学)  
木村 健二 (下関市立大学)

ラウンドテーブル E (Zoom 会場 7) 共同研究推進委員会企画 20 年度分

ドキュメンタリー映画『ミリキタニの猫<特別編>』の上映とディスカッション

モデレーター：庭山 雄吉 (武蔵大学)

マサ・ヨシカワ (プロデューサー)

コメント

吉見 かおる (名古屋外国語大学)

コメント

神田 稔 (アジア系アメリカ文化研究/ハワイ移民研究者)

ラウンドテーブル F (Zoom 会場 8) 共同研究推進委員会企画 21 年度分

移民研究の国際化にむけた日米研究者の対話

モデレーター：佃 陽子 (成城大学)

報告

飯島 真里子 (上智大学)

報告

水野 真理子 (富山大学)

報告

Sidney Lu (Michigan State University)

報告

Andrew Leong (University of California, Berkeley)

### ◆自由論題報告 (大会 2 日目 A 会場 9:15~11:50、B 会場 9:15~12:30)

A 会場 (Zoom 会場 11)

司会：小澤 智子、佃 陽子

佐藤 麻衣 (昭和女子大学 (院))	世界恐慌期のニューヨークの日本人画家—ニューディール政策とリベラルな美術組織—
柳澤 幾美 (名古屋外国語大学他)	船上の『写真花嫁』と『スチュワードス』物語
阿部 純 (東北大学 (院))	越境する日系人運動—戦時強制収容をめぐる語りとその意味—
中橋 真穂 (大阪大学)	日系アメリカ人 4 世の来日経験—エスニック・アイデンティティに着目して—

B 会場 (Zoom 会場 12)

司会：山田 政信、石川 真作

Gustavo Meireles (神田外語大学)	在外国民政策の変遷に関する考察：ブラジルにおける新移民法制定とボルソナロ政権誕生を中心に
新倉 卓 (同志社大学 (院))	ドイツにおける移民の貢献と課題—トルコ系移民によるコロナワクチン開発の事例から—
黒川 智恵美 (広島大学 (院))	スーダン移民の日本における知識獲得活動と母国への貢献意識 状況論的学習観を用いた考察
城 渚紗 (東京大学 (院))	サハリン残留朝鮮人の帰還と支援をめぐる市民の動き—「妻の会」と「中ソ離散家族会」を中心に—
Francis Peddie (名古屋大学)	50 Years of the Japan Mexico Exchange Programme: Assessing the Long term Impact

■ 大会事前参加申し込みについて

第 30/31 回大会はオンラインで開催します。日本移民学会 HP トップページ「日本移民学会第 30/31 回年次大会参加フォーム」にて、2021 年 6 月 5 日までに参加を申し込んでください。

日本移民学会 HP: <http://imingakkai.jp>

大会企画委員：佐原 彩子、高橋 典史、土屋 智子、拝野 寿美子、岡井 宏文、徳永 悠

開催校：外村 大、羅 京洙、城 渚紗、大橋 利光、櫻井 すみれ